

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

14

男子 ・ 女子 ・ 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名				チーム名			
	総得点				総得点		
浦添商業高等学校	26	[	11	—	15	]	23
			15	—	8		
			—				
			—				
			—				
			7mTC				

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

15

男子 ・女子 2 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
添上高等学校	15	4 11 — — — 7mTC	21 19	校成学園女子高等学校

近畿ブロックから17年ぶり8回目の出場となる添上高校（奈良）と関東ブロックから10年連続

22回目の出場となる校成学園女子高校（東京）の対戦。帛成のスローオフから試合は始まった。

先制点は帛成4番（阿部）のポストシュート。その後も高さのある堅い守りからの速攻で着々と加

点し、6分44秒経過で6対1とする。たまたず添上はタイムアウトを取るが攻撃の糸口はつかめず、

9Mラインの中になかなか攻め込めない展開が続く。一方、帛成は2番センターのキャプテン（須田）

を軸に多彩に攻め続けて加点し、前半は21対4のスコアで、帛成が17点をリードして終了した。

後半も流れは変わらず、交代メンバーが1人しかいない添上は苦しい展開が続く。一方、帛成は、

レギュラーメンバーを温存しながらも連続得点を許さない。足が止まってきた添上のすきをつき徐々

にまた得点を加点し始める。添上もペナルティスローを決めるなどして必死の抵抗をする。23分半を

過ぎて36対12で帛成が18点リード。添上は2回目のタイムアウト後に1点を取り最後の反撃に出る

。その後も速攻でさらに2点を返して意地をみせる。最終スコア40対15で帛成が添上に圧勝した。

2017年 3 月 25 日

記載者氏名 正田 慎

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

1 1

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 加古川市立総合体育館 コート

県立日川 高等学校	総得点		15 — 12 14 — 8 — — — 7mTC	]	総得点		県立明石 高等学校		
	29				20				

古豪復活を目標に掲げる日川高校と、40回大会記念枠で出場の明石高校との一戦。日川高校

のスローオフから試合開始。パスミスやシュートが枠から外れるなど両校とも不安定な立ち上

がり。開始2分7番今川がシュートを決め、日川が先制。明石は14番福永のシュート、2番

小西の好セーブなど、持ち味の堅守速攻で、日川も全員がシュートを打つ多彩な攻めで一進

一退の競り合いが続いた。明石の退場で数の利を得、一瞬の隙をつく攻撃を見せた日川が3点

をリードし、前半を折り返した。

後半開始早々に明石から一人退場し、その間に日川が6番平野、7番今川などの高さを活かし

た攻撃で得点を重ね、相手に主導権を渡さなかった。一方明石は6番亀井のパスカットからの

シュートやミドルシュートなどで対抗するも、日川の守備を崩しきることができず、反対に

確実に得点した日川が前半のリードを更に広げ、逃げ切った。明石は地元の一丸となった応援を

背に、集中力に満ちた試合運びを見せたが、初戦敗退となった。

29年 3月 25日

記者氏名 辺見 翔太

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男5

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名				チーム名			
総得点				総得点			
愛知高校	25	13	—	9	18	熊本市立千原台高校	7mTC
		12	—	9			
		—	—	—			
		—	—	—			
		—	—	—			

2回戦、今大会初試合の愛知（愛知、5年連続20回目）と昨日湯沢に勝利した千原台（熊本、

3年ぶり、22回目）の対戦は、千原台のスローオフで開始された。先取点は愛知20番松本のセン

ターからのミドルシュート。お互いに速いセットプレーや、逆速攻などで攻め合うも、一進一退の

攻防が続く。チャンスを確実に得点につなげた愛知が、13分には8-4とリードした。

その後、シュートミスやGKの好セーブなどもあって、双方、決め手のないまま得点は伸びない。

13-9と愛知のリードで前半を終了した。

後半は、愛知ペースで始まった。千原台のシュートミスやパスカットからの得点などで5分には

16-9とリードを広げた。その後、互いにコート上を激しく往復するもシュートミスなどが多く、

双方得点にはつながらない。終盤25分には23-16、愛知のリードと7点差は、変わらない。

このペースは後半、終始変わらず、東海地区1位の愛知が千原台を、25-18で振り切り、3回戦

へと駒を進めた。

29年 3月 25日

記載者氏名 小川 健三

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男10

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

チーム名

総得点

明 星

26

13 ー 13
13 ー 12
ー
ー
ー
7mTC

総得点

25

チーム名

四日市工業

2回戦第10試合。四日市工のスローオフで試合開始。3-3 ディフェンスで守る明星に対して四日市工は機動力を生かした攻めで得点を重ねる。一方明星は3番高橋、10番金森のロングシュートを中心に確実な攻めを見せるが、徐々に点差は開き始め流れは四日市工に。前半18分、明星は6-0 ディフェンスに変えて守りを固め、連続得点で傾いた流れを一気に取り戻す。22分に金森の得点で追いついた明星は14番坂木の速攻でついに試合をひっくり返す。しかし四日市工も直後に取り返し13対13の同点で前半を終える。後半開始直後に退場者を出した明星に対して四日市工はマンツーマンディフェンスで一気に攻撃を仕掛ける。さらに相手のミスを見逃さず速攻でも得点を重ね、9分までに4点差をつける。ところが明星はここから確実なディフェンスで四日市工に得点を許さない。ゆっくりと点差を縮め18分ついに再び追いつく。勢いづく明星は連続得点で突き放しにかかるが、退場者を出し流れは再び四日市工に。27分に同点にした四日市工だったが29分、明星の高橋にロングシュートを決められる。そのまま明星が残り1分を守り切ってゲームセット。流れを手放さなかった明星の粘り勝ちとなった。

29年 3月 25 日

記載者氏名 薄井 彰宏

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

16

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 高砂市体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立藤代紫水	27	9 18 — — — — 7mTC	9 10 — — — —	県立大分雄城台
			19	

藤代紫水のスローオフで試合開始。序盤、大分雄城台のペースで試合が進んでいく。立ち上がり素早い攻撃で4点を先取り引き離す。対する藤代紫水も負けじと攻撃を仕掛けるが、大分雄城台ゴールキーパー渡邊の好守や戻りの早いディフェンスに阻まれ、なかなか得点を決められない。

しかし、9分、キャプテン河原の得点をきっかけにリズムに乗った藤代紫水、河原の4得点を含む猛攻で一気に追い上げ、13分には5-4と試合をひっくり返す。その後は両チーム、互いの堅い守りをなかなか攻めきれず、互角の攻防が続き、前半を9-9の同点で終える。後半は逆に藤代紫水が開始後に主導権を握った。田中、櫻井を中心に着実に得点を重ねていき、中盤過ぎには21-11と10点差をつけた。終盤にはキャプテン橋口を中心に4連続得点を挙げるなど大分雄城台も反撃にうって出たが、後半立ち上がりでの点差を縮めきることができず、最後は27-19で藤代紫水が勝利をおさめた。藤代紫水の堅守が最後まで光った試合であった。

29年 3月 25日

記載者氏名 原田 真行